

令和元年5月10日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02337

研究課題名(和文) 阿久悠の時代観察と創作活動の実態分析 「阿久悠日記」と関係者の証言を中心に

研究課題名(英文) A Study on the Actual Condition Analysis of AKU Yu's Observing the Times and his Creative Activity:Focusing on "Aku Yu Diary" and Testimonials by Concerned Parties

研究代表者

吉田 悦志 (YOSHIDA, Etsushi)

明治大学・国際日本学部・専任教授

研究者番号：40210679

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：期間内に実施した研究は次の通りである。第1に阿久悠の残した日記を精読し、阿久が日々の出来事を綿密に記録(時代観察)し、創作にあたっていた実態を明らかにした。第2に阿久を知る関係者に対してオーラル・ヒストリーを実施し、阿久の人物と創作活動の様相を明らかにした。第3に昭和歌謡の担い手や影響を受けた人物の検討を行い、その影響関係について考察した。第4に、明治大学で収蔵する阿久悠資料のほぼ全量の電子化を実施した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の遂行を通して、第1に、未公開原資料の使用及び関係者への直接アクセスを通し、阿久悠の時代観察を重視した創作実態について、従来の研究にない実態的解明を果たし、阿久悠をめぐる研究の進展に資した。第2に、関係者へのオーラルヒストリーや、明治大学で収蔵する阿久悠関係資料の電子化等の成果を文化資源として、ポップカルチャー研究における「阿久悠研究」「昭和歌謡研究」の定立とその基盤構築への貢献を果たした。

研究成果の概要(英文)：The studies we conducted during the period are as follows. First, we read carefully the diary left by AKU Yu. As a result, what we clarified was the fact that Aku closely recorded daily events, in other words, observed the times, and used those observations for creative activities. Second, we conducted oral history for those who knew Aku, and clarified the appearance of AKU's characters and creative activities. Third, we examined the creators of the popular songs of Showa era in Japan (Showa Kayo) and the persons who influenced the Showa Kayo, and considered their mutual influence relationship. Fourth, we carried out computerization of almost all of the materials of AKU Yu collected at Meiji University.

研究分野：人文学

キーワード：大衆芸術 大衆文化論 人文学 昭和歌謡 阿久悠 大学アーカイヴズ ポップカルチャー

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

申請者たちが研究資源の構築に携わってきた明治大学史資料センターは大学及び関係者の営みを挙証する歴史記録を保存・活用する、いわゆる大学アーカイヴズとして先導的な役割を担っている。センターの研究活動の特色は、これまで大学で輩出した人材に関する資料収集・調査研究を行い、彼らが日本の社会基盤構築に貢献したことを明らかにしてきた点である。取り組みの一端はセンター編『明治大学小史 人物編』(2011年)に示した。同書編纂にあたって明治大学出身人物の類型化とその評価を行い、私立法律学校がルーツの明治大学では、法曹分野に厚く人材を輩出したことを再確認するに至ったが、他方でポップカルチャーの発展に寄与した人物を多数輩出していることも明らかにし得た。とりわけ古賀政男(1904-1978)、阿久悠(1937-2007)をはじめとする昭和期の大衆音楽(以下、「昭和歌謡」と呼称)で大きな貢献を果たした人物が多いことに注目し、同書の編纂終了後、昭和歌謡史研究会(吉田悦志代表)および分科会として日記研究会を設置し、昭和歌謡の位置づけと、特に阿久悠の作詞実態に関する検討を深化させた。

これまで阿久悠とその歌謡曲の仕事をめぐる、古茂田信男他編『新版 日本流行歌史』(全3巻・1995年 原著は1970年)高護『歌謡曲』(2011年)等の通史研究、阿久の評伝では重松清『星を作った男』(2008年) 作詞論として見崎鉄『阿久悠解体神話』(2008年) マーケティング論として高澤秀次『ヒットメーカーの寿命』(2009年)など、個別課題を解明した成果がある。だが重松を除いてはいずれも新聞・雑誌・刊行物など、公刊された資料を中心に用いた成果であり、阿久の作詞実態が十分に明らかにされるものではなかった。研究会ではその課題を踏まえて検討を進め、2014年12月刊行のセンター編『大学史紀要』第20号において300頁に亘る特集「阿久悠研究」を組み、阿久の履歴と作品論(吉田) 阿久悠子息深田太郎氏へのインタビュー(同) 作詞曲のディスコグラフィ(研究会編) 歌碑調査(阿部) 昭和歌謡の発生と沿革(村松)等の多面的な中間成果を発表した。また先にセンターでの成果の一部を活用した常設展示施設「明治大学阿久悠記念館」を2011年に開館させ、2015年10月現在の来場者は約7万人にのぼる。

これまでの成果には解明すべき課題が残されている。第1に、阿久悠の昭和歌謡作品群が与えた社会的インパクトを、新聞・雑誌などを通して検証することに重きが置かれる反面、昭和歌謡を支えた担い手たちへの直接面談や、原資料を使用して綿密な実態分析を図るアプローチが欠けている点である。日記などの原資料や関係者への直接アクセスを通して、作品が成立するにあたって、送り手たる阿久自身がどのような狙いを持っていたのか、また阿久と仕事をともにした関係者がどのように考えているのかをより詳らかにすることが求められる。

第2に、阿久悠は1970年代後半から『瀬戸内少年野球団』をはじめとする小説作品や、警句を駆使した『清らかな厭世 言葉を失くした日本人へ』など、作家として多数の作品を発表し、三度にわたって直木賞候補となった他に各種の文学賞を受けるなど、その作品群は高い評価を受けている。しかし作家としての阿久悠の仕事についてはまだ徹底的な検証・評価は行われていない。

阿久悠の創作活動総体を明らかにするには、そのキャリアの一半であった作家としての仕事について詳らかにすることが求められる。これらの課題をトータルに検証することは、阿久悠及び昭和歌謡研究上の欠落を埋める意味で必須であるとの考えに至ったものである。

2. 研究の目的

本研究は、日本のポップカルチャー史上に大きな影響を与えた作詞家・作家阿久悠の未発表日記等貴重資料の電子化や、関係者へのオーラル・ヒストリー等の実施活用を通して、阿久が綿密な時代観察に基づいて、数々の歌謡曲や小説などのヒット作品・企画を生み出した実態を明らかにするものである。本研究の遂行を通して、ポップカルチャーを担った人材が現代文化構築にいかに関与したかを明示するとともに、ポップカルチャー研究における「阿久悠研究」「昭和歌謡研究」の定立とその基盤構築への貢献を企図する。

研究項目は 日記等に見る阿久悠の創作活動の検証 日記等に見る阿久悠の時代観察の検証 関係者の証言による阿久悠の人物像と作品 「昭和歌謡」の検証の4つである。

3. 研究の方法

上記の背景及びこれまでの研究成果をもとに、以下の個別課題を設定し、各課題の解明に向けた検討を行った。

日記等に見る阿久悠の創作活動の検証

阿久悠の創作活動の実態を明らかにすることは、本課題の解明にとってきわめて重要である。阿久の仕事は大きく2つに分けられる。第1は作詞家としての仕事である。阿久は1970年代昭和歌謡曲の象徴的存在であり、2013年まで作詞家別レコード売上史上第1位(6800万枚)を誇った。第2は作家としての仕事である。阿久は1970年代後半から2007年に没するまで100冊に迫る小説・エッセイ・詩集等多分野にわたる著作を遺している。こうした阿久の作詞家及び作家としての作品作りのモチーフと、社会への送り出し(商品化)までの過程を検討する。その際にはセンター所蔵の阿久悠の未公開日記(1981~2007年。以下「日記」と呼称)等の各種原資料を用いる。とりわけ日記には、阿久の多忙な仕事の様子やその進捗、各種のアイデアが仔細に記されている。これらの資料の検証を通して、阿久の創作にあたっての思考プ

ロセスや、マーケティング感覚等を明らかにする。

日記等に見る阿久悠の時代観察の検証

阿久は日記において、日々の感情の動きに関する記述を最小限に留め、仕事の様子や、各種のアイデアとならんで、阿久が接した日々の時事ニュース（世界情勢、気象、スポーツの結果、訃報記事等）を詳細に記述する独特な構成を取った。時代を念頭に置いて作品作りを行った阿久にとって、日記は阿久のアンテナにかかった情報を記述・分析する場であり、数々の作品の源泉でもあった。ここではとくに日記を中心とし、阿久がバブルのはじまりから、その崩壊を経て、21世紀までどのような時代観察を行い、それをいかに作品に昇華させていったかを明らかにする。

関係者の証言による阿久悠の人物像と作品

歌謡曲の制作や著作の編集等で阿久と仕事を共にした関係者たちへのオーラル・ヒストリーを通して、関係者の目から見た阿久悠の人物像と作品制作にあたる姿勢を明らかにする。

「昭和歌謡」の検証

阿久悠が巨大な足跡を残した「昭和歌謡」は、昭和期の大衆的な歌曲全般を指す包括的な概念であり、明確な定義は存在しない。阿久とともに昭和歌謡の担い手であった人物や、昭和歌謡に影響を与えた人物についての検討を通して、その一端を明らかにする。

上記～の個別課題の解明を通して、ポップカルチャーを担った人材が現代文化構築にいかにか寄与したかを明示するとともに、ポップカルチャー研究における「阿久悠研究」「昭和歌謡研究」の定立とその基盤構築への貢献を企図する。

4. 研究成果

2016年度は、日本のポップカルチャー史上に大きな影響を与えた作詞家・作家阿久悠の未発表日記をはじめとする貴重資料の検討と、関係者へのオーラル・ヒストリー等の整理を通して、阿久の「時代観察」の実態と、その人物像の形成につとめた。具体的な内容は次の通りである。

第1に、日記等に見る阿久悠の創作活動と時代観察の検証を行った。とくに従前から進めている日記の解読作業を推進し、晩年にあたる2000年代の日記の精読を行った。この作業を通して、晩年の阿久が日々のニュースを綿密に日記に書きとどめ、創作の糧としたことを確認するに至った。なお、これらの日記は現段階では一般に公開されていない。そのため、日記の存在とこれまでの成果の一部を内外に周知するための展示を計画した（2017年度実施。後述）。

第2に、関係者の証言を通して阿久悠の人物像構築に資する作業を行った。今年度は阿久悠の学生時代の思い出を中心として、これまで実施したインタビューの整理作業を実施した。いわゆる「阿久悠以前」の人物像を構築する作業を通して、作詞家として活躍を見せる以前から、阿久が音楽や言葉に対する深い興味を持っていた一端を明らかにすることができた。

第1、第2の作業の成果の一部を活用して『大学史紀要』（明治大学史資料センター）第22号（2017年2月刊行）において特集「阿久悠研究」を刊行した。

2017年度は、前年度の研究成果を踏まえながら、作詞家・作家阿久悠の未発表日記をはじめとする貴重資料の検討の成果について一部公表するとともに、関係者のオーラル・ヒストリーを公開形式で実施し、阿久の「時代観察」の実態と、その人物像の把握深化につとめた。具体的には次の通りである。第1に、日記等に見る阿久悠の創作活動と時代観察の検証成果を一部明らかにした。とくに今年度は阿久の未発表日記について、プライバシーに関わる部分は除き、創作と時代観察の側面が明らかになる箇所を中心としてその一部を展示及び刊行物により公表した。阿久の作品や人物を研究する上で重要な日記の一部を公表する作業を通して、代表者の研究を深化させることはもとより、阿久や昭和歌謡研究全体の研究深化への波及効果を期待するものである。

第2に、関係者の証言を通して阿久悠の作品や人物像の構築を深める作業を行った。阿久悠の日記に関するオーラル・ヒストリーを公開の形で御遺族から行うとともに、阿久が仕事の基礎を培った広告代理店・宣弘社時代の同僚であり、盟友として、阿久とコンビで多くの作品を発表した漫画家・上村一夫氏の御遺族にも、公開によるオーラル・ヒストリーを行った。前者については、日記について、第三者からは知りえない身内ならではの観点から、阿久悠が日記を書き始めたきっかけや、日記を通してみる仕事や人物について貴重な証言を得た。後者については、いわゆる「阿久悠以前」の、広告マン深田公之（ふかだ・ひろゆき）の仕事の様子や人物像に、後年の阿久悠となった仕事や人物の片鱗があったことを明らかにし得た。

第1、第2の成果の一部を『文藝別冊 阿久悠』（2018年8月刊行）『東京人』（2017年9月号）『大学史紀要 第24号』（2018年3月刊）において発表した。

2018年度は、作詞家・作家阿久悠に関連する作詞家や詩人の調査を実施するとともに、阿久が遺し、明治大学で保存する作品原稿のデジタル化をほぼ完了させた。また阿久悠日記の一部を活用した研究成果を発表した。具体的には次の通りである。

第1に、阿久悠に関連する作詞家・詩人等の調査を行った。まず、古賀政男作曲で現在も愛唱される「紫紺の歌」の制作過程に立ち会った方に聞き取り調査を行った。続いて、歌謡曲の作詞に影響を与えた石川啄木や宮沢賢治の作品について、記念館を訪問するとともに、検討を行った。また阿久に先行して作詞家として活躍したサトウハチロー記念館を訪問し、作詞作品の調査を行った。

これらの作業を通して、いわゆる昭和歌謡における作詞技法の諸相について確認を行い、阿久

の作詞との比較を図った。

第2に、明治大学阿久悠記念館で保管する阿久悠の直筆作品原稿のデジタル化を行った。阿久悠は一貫して手書きで作品を執筆した。同館に保存される阿久悠の原稿は 作詞作品、小説、エッセイ、構成メモ等に分類される。これらの作品は原稿用紙で32500枚あまりにわたる。単行本未収録の原稿も多く、作品の成立過程を知る上でこれらの直筆原稿はきわめて貴重であることから、デジタル化を図ったものである。デジタル化は昨年度における日記の一部公開等と併せ、これまで公開された資料のみを中心として行われてきた阿久悠や、そのかわった昭和歌謡の研究の実証性を高めるきわめて重要な資料といえる。今後一層の研究の深化を図るとともに、資料の公開等も積極的に図っていくものとする。

第3に、富澤が阿久悠日記を一部活用し、研究成果を報告した。とくに富澤は志賀直哉に関する記述を中心に阿久と志賀作品を検討した。日記の一部公開とその研究は2017年度に実施したが、その多面的な活用を図ることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計15件)

- 富澤成實、阿久悠日記のなかの志賀直哉に関する記述をめぐって、大学史紀要、査読無、第25号、2019、94-101
- 富澤成實、二人の父・阿久悠と上村一夫、大学史紀要、査読無、第25号、2019、102-104
- 吉田悦志・富澤成實・小笠原渉・村松玄太、南館信也氏聞き取り、大学史紀要、査読無、第25号、2019、172-186
- 吉田悦志、「阿久悠 詞と人生」を語る、日本の古本屋ウェブサイト (https://www.kosho.or.jp/wppost/plg_WpPost_post.php?postid=3229) 査読無、2017
- 吉田悦志、日記解説 わが身に捧げる応援歌、文藝別冊 総特集 阿久悠 KAWADE 夢ムック、査読無、2017、97-110
- 明治大学史資料センター昭和歌謡史研究会(吉田悦志・富澤成實・村松玄太)、阿久悠年譜、文藝別冊 総特集 阿久悠 KAWADE 夢ムック、査読無、2017、223-231
- 吉田悦志、(インタビュー)明治大学阿久悠記念館 貴重な遺産を、ひとりでも多くの人々に、東京人、査読無、387号、2017、94-95
- 村松玄太、阿久悠の直筆作品原稿をめぐって、作詞家・阿久悠の軌跡 没後10年・生誕80年、査読無、1巻、240-255、2017
- 吉田悦志、昭和歌謡史研究会分科会・日記研究会の活動と今後、大学史紀要、査読無、第22号、8-9、2017
- 吉田悦志、昭和歌謡の本道をめぐって 阿久悠と美空ひばり、大学史紀要、査読有、第22号、12-37、2017
- 富澤成實、阿久悠『日記力 『日記』を書く生活のすすめ』を読む 自身による日記の解説と読者への遺言、大学史紀要、査読有、第22号、38-64、2017
- 村松玄太、阿久悠の直筆作品原稿をめぐって、大学史紀要、査読無、第22号、176-204、2017
- 吉田悦志・村松玄太、インタビュー記録 遠藤隆司氏、大学史紀要、査読無、第22号、206-223、2017
- 吉田悦志・村松玄太、インタビュー記録 秦莞二郎氏、大学史紀要、査読無、第22号、224-244、2017
- 吉田悦志、『阿久悠 詞と人生』を語る、日本の古本屋メールマガジン、査読無、第225号、2017

〔学会発表〕(計16件)

- 吉田悦志、明大校友山脈 利光鶴松・子母澤寛・岡本喜八・阿久悠を語る、明治大学校友会練馬地域支部記念講演会、2018年11月17日
- 吉田悦志、北海道と明治大学 石狩湾岸の映画・音楽・文学そして歴史、明治大学ホームカミングデーオープン講座、2018年10月28日
- 吉田悦志、続・小田急沿線の明治大学文化を訪ね ぶらり旅、明治大学・小田急電鉄連携オープン講座、2018年10月6日
- 吉田悦志、阿久悠と美空ひばり、小学館神保町アカデミー、2018年7月10日
- 吉田悦志、昭和歌謡で歌われた女性たち 古賀政男から阿久悠、そして宇崎竜童と阿木燿子へ、2018年5月20日
- 吉田悦志、子母澤寛から阿久悠へ 大衆の心と時代を捉える超絶表現の魅力、北海道立文学館主催・子母澤寛展講演会、2018年4月28日
- 吉田悦志、小田急沿線の明治大学文化を訪ねぶらり旅 利光鶴松・阿久悠・岡本喜八・子母澤寛、明治大学リパティアカデミーオープン講座、2018年3月31日
- 吉田悦志、昭和歌謡に歌われた女性たち 古賀政男・阿久悠・阿木燿子の作品にみる、社会保険労務士駿台会、2018年1月20日

吉田悦志、阿久悠 3つの力、明治大学応用化学会、2017年11月25日

吉田悦志、阿久悠 詞と人生、明治大学ホームカミングデー特別講演会 様々なる明治大学、2017年10月22日

深田太郎・吉田悦志、阿久悠日記の《謎》を読み解く、講演会・トークイベント 阿久悠日記の《謎》を読み解く、2017年9月30日

富澤成實、阿久悠日記と『日記力』『日記』を書く生活のすすめ、講演会・トークイベント 阿久悠日記の《謎》を読み解く、2017年9月30日

吉田悦志、子母澤寛と阿久悠 大衆性の原点、第1回「子母澤寛文学賞」「愛猿記賞」表彰式・記念シンポジウム、2017年8月27日

吉田悦志、阿久悠 詞と女性、明治大学父母交流会特別講演会、2016年11月27日

富澤成實、阿久悠著『日記力』を読む、明治大学父母交流会特別講演会、2017年11月27日

富澤成實、阿久悠著『日記力』を読む、明治大学ホームカミングデー特別講演会、2016年10月23日

〔図書〕(計1件)

吉田悦志『阿久悠 詞と人生』明治大学出版会、2017年、208ページ

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：富澤 成實

ローマ字氏名：TOMIZAWA Shigemi

所属研究機関名：明治大学

部局名：政治経済学部

職名：教授

研究者番号(8桁)：70339563

研究分担者氏名：村松 玄太

ローマ字氏名：MURAMATSU Genta

所属研究機関名：明治大学

部局名：総務部総務課

職名：専任職員

研究者番号(8桁)：80639568

(2)研究協力者

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。